

タイトル： 社員全員で自由にアイデアを出せるようチャットを活用



水害

ポイント

- 災害やコロナ対応などで、社員全員で自由にアイデアを出せるようチャットを活用
- 社員の士気を最優先。災害時の復旧作業では社員の負担軽減に重点

BCP策定のきっかけ

- 同社は、国内外で活躍する破砕機・選別機・砕石機械のメーカーとして1908年に設立し、武雄市に本社を置いて100年以上経過。
- 立地場所が武雄市の洪水ハザードマップで0.5m以上～3m未満の洪水が想定される地域のため、以前から被災時の指揮命令体制や役割分担を整理していたが、令和元年佐賀豪雨で大きな被害を受けたことをきっかけに、BCP策定を開始。

BCP策定時の課題と解決方法

- 令和元年佐賀豪雨による被害が大きく、部品を含め拭き掃除に3ヶ月程度かかったが、社員からすれば苦痛を伴う作業であった。社員全員のモチベーション向上や社員が安心して働ける環境作りが最優先と考えており、このため、過去の復旧作業の中で社員が苦痛に感じた作業は次の災害までには代替策を講じ、社員の負担軽減に努めている。
- 被害を最小限に抑え、復旧作業を軽減するため、「災害チャンネル」と題したチャットを設置。そこに、社員は災害やコロナ対策に関するアイデアを自由に次々に書き込んでいる。これにより、BCPの検討を担当チームに限らず社員全員で自由にアイデアを出せる環境を構築。これを元に、より効果の高い対策を講じることができている。

策定した内容

- 平時の取組として、災害復旧時に使用する掃除用具・資料を高所で管理。また、設備等をランク分けし、移動可能なものは重要度の高いものから高所に配置。また、災害発生時は移動可能な機械や車両は屋上駐車場へ移動。
- グループラインを活用し、一斉に安否等の情報を共有している。手頃なシステムで手間をかけない対策として有効である。
- 災害時の様子を遠隔からリアルタイムで確認できるよう定点カメラを約20台設置し、定点カメラへのアクセスURLを共有。これにより、災害時に危険を伴いながら事務所へ足を運ぶリスクを回避し適切に判断している。

- 毎年社員全員参加の防災訓練を実施。さらに、天気予報で大雨などが懸念される場合、“実践訓練”として、災害時の取組の7割を実施。本番さながらの取組とすることで担当・手順が確認でき、社員の防災力向上に貢献している。

BCP策定後の効果

- 令和3年8月大雨では、想定以上の水位で、浸水を防げなかったが、止水板を設置したことで、泥の流入を防ぐことができた。復旧作業の中でも重労働な土砂のかき出し作業が大幅に軽減。復旧に係る作業期間の短縮につながった。
- また、全社員対象の防災訓練や、梅雨時期にも重ねて訓練を実施したことで、ブレーカーの切り忘れもなく、社員の防災意識の向上はもちろん、災害発生時の被害軽減につながった。
- 定点カメラを設置し、被害の生じる様子を記録したことで、水の侵入経路、止水板の高さ・排水ポンプの稼働具合等を確認できた。被害が生じた原因を分析し、課題の洗い出しが可能となり、今後の浸水対策に活用できた。



止水板



掃除用具置き場

【会社概要】

企業名：株式会社中山鉄工所
所 在：佐賀県武雄市朝日町甘久2246-1
資本金：8,650万円
従業員数：120名
業 種：一般機械器具製造業
企業HP：<https://www.ncjpn.com/>

活用施策

- ・佐賀県事業継続力強化支援補助金（災害型）